

収納率向上に向けた取り組みを

総務常任委員会

委員長 橋本位知朗 副委員長 岩見正純
委員 高田重雄・相田一良・増田豊・市村香・菊池伸浩・鈴木裕一

歳入については、税制改正により、個人市民税の増収が見込まれ、固定資産税、各交付金では減収が見込まれる。また、地方交付税については増収が予定されるが、今後とも予断を許さない状況の中で、基金の取り崩しを行うことなく予算計上されていきます。収納率向上に向けては、職員での臨時戸別訪問、茨城租税債権管理機構、県税事務所とタイアップしながら、税の公平性を確保し、さらなる収納率の向上を要望しました。

被災地の復興を

最近では、国が全国規模で各自治体に対して瓦れき等の処分を受け入れを求めている動きが見られます。被災地の一日も早い復興の手助けになれるよう、方策を桜川市のみならず、筑西広域市町村圏事務組合や隣町自治体と、連携を取り合っていくよう要望しました。

人口が減少していく中で、安全・安心の

地域の安全と安心を

ごみの減量化を

一般家庭で排出されるごみの処分料は、一トン当たり四万円から四万五、〇〇〇円を要するため、ごみの減量化が市の財政支出の削減に直結していることを、広報紙などで啓発周知していくよう要望しました。



災害援護資金貸付事業の周知を

文教厚生常任委員会

委員長 飯島重男 副委員長 萩原剛志
委員 林 悦子・上野征一・増田俊夫・大塚秀喜・小高友徳

この事業は、東日本大震災により住居等が半壊以上の被害を受けた者に対する生活再建に向けた援助策として、貸し付けを行う制度です。しかし、現在もなお、住家の全壊・半壊等で生活再建に苦慮されている方も多く、再度、市民の皆さんに周知されるよう要望しました。

小中学校適正配置計画の策定

児童・生徒が毎年一〇〇人近く減少する中で、小中一貫教育を視野に入れた小中学校適正配置計画の策定について、九月決算議会までに報告するよう要望しました。また、小中学校適正配置計画に伴い、スクールバスの運行については、今後、巡回バス等、市の交通網の整備とあわせ総合的に検討し、経費が有効に生かされるよう要望しました。

介護予防教室の充実を

三年に一度の介護保険事業計画の見直しにより、介護報酬の改定や給付費の増加等が見込まれ、介護保険料が増額してまいります。高齢者人口は増加傾向にあり、今後、給付費は増加すると思われることから、高齢者が介護状態にならないように、現在実施している転倒予防や口腔ケア等、介護予防教室のさらなる充実と参加者の増加を図るよう要望します。

現地視察

【三月十四日】
伝統的建造物群保存地区推進事業の高久家、木村家の見世蔵を現地視察しました。



菊池伸浩 議員

岩瀬駅周辺整備計画の経済効果は疑問

問 新年度予算では、岩瀬駅周辺整備事業が計上されている。当初、跨線歩道橋だけであったものに、駅舎の橋上化が加わり総額一四億円の規模に拡大している。さらに、図書館を兼ねた交流施設も加わることだ。合併特例債などを使うとしても、市の持ち出し分は幾らになるのか。経済効果の少ない無駄な公共事業と考えるが、市の見解を伺いたい。

答 市長は、もう一度臨時議会を開く考えがあるのか。市長の見解と同じです。再提案については熟慮中です。

問 谷貝小の学童保育が利用できるのは、いつからか。できるだけ早い設置を望みたい。また、プレハブ設置の要望もあるが、

答 福祉部長 学童保育事業では、国が三分の一、県が三分の一の補助があり、事前協議等、平成二十五年開校に向けて進めたい。谷貝小は、空き教室がないので学校施設にこだわらず進めていきたい。



市村香 議員

桜川市立谷貝小学校の学童保育

岩瀬駅周辺整備事業

問 岩間駅を参考にした実施設計で、予算化するのは時期尚早ではないかと質問した経緯がある。予想したとおり、結局、十二月に見送りするとして取り下げたのが、今回、急に都市整備課から出てきたのはどういうことか。

答 市長公室長 駅舎について、国交省とJR東日本と調整すべき案件があり、企画課で進めてきましたが、本来の担当課に所管がえをしました。

まとめ

JR東日本での調整も済んでいないのに、一度予算をつけるといつの間にか進んでしまう。結論は、一四億円ではなく一〇億円ぐらいがいいのでは。十分に議会への説明と協議をして、進めていただきたい。

問 過日、筑波大学病院を訪ね、病院長らと一時間懇談をして、桜川市議会の様子を話し、意見を聞いてきた。病院長の話では、「東西病院を立て直すには基幹病院をきちんとするしかない」とのことだ。医師派遣の中心となる筑波大学の見

